

あま市民病院だより

★認知症の原因になることも・・・慢性硬膜下血腫について

慢性硬膜下血腫とは、頭を打ったあとしばらくしてから、頭の中にゆっくりと血がたまって脳を圧迫して、頭痛や手足の動かしにくさ(麻痺)、言葉がでない(失語)、認知症などをきたしてくる疾患です。頭を打った時はなんともなくても、外傷後1～3か月して症状がでてくることが多いです。

高齢者がなりやすい疾患であり、強い外傷の方がなりやすいのですが、タンスの角でぶつけたなど軽い外傷で生じることもあります。さらに血液をさらさらにする薬を内服している人やアルコールをよく飲む人、肝臓の病気や血液の病気を持っている人などがさらになりやすい傾向にあります。

年齢が若い人になると持続する頭痛で病院へかかる方もみえますが、高齢者の場合は、歩行時に足をひきずるようになった、ものを落としやすくなったなどの軽い麻痺症状で発症したり、時にもの忘れや会話がかみあわないといった症状で最近認知症状がすすんできたと家族に連れられて受診される方もいます。通常の認知症はゆっくり進行してくることが多いですが、1～2週間の短期間で認知症状が急速にすすんできたものだと、この慢性硬膜下血腫が原因になっていることがあります。

通常はCT検査を行えば、すぐに診断は可能です。たまった血の量が少なければ内服薬で軽減できることもあります。麻痺や失語、認知症など症状がでていれば手術が必要になります。手術は局所麻酔で行われる事が多いと思いますが、頭蓋骨に小さな穴(穿頭)を作成して、骨の下の硬膜という硬い膜を切開して、その下にたまっている血腫を吸引する手術になります。ゆっくり(慢性)と硬膜の下に血液がたまるので慢性硬膜下血腫という病名になります。血腫を除去すれば、麻痺や認知などの症状は比較的に改善しますが、発見が遅れ、症状が進行すると意識障害となり、生命にかかわったり、手術をしても回復しないこともあります。

外傷後にしばらくして急速に進む認知症などあれば、CT施行可能な医療機関の受診をお勧めします。

あま市民病院 脳神経外科 打田 淳うちだ あつし



公益社団法人

地域医療振興協会

あま市民病院

～市民と連携機関に信頼され、健康と安心を提供する病院～

〒490-1111 あま市甚目寺畦田1番地

問合時間：午前8時30分～午後5時

(土・日曜、祝日を除く)

☎ 444-0050 FAX 444-0064

<https://www.amahosp.jp/>



◆◆◆あま市民病院Facebookのご紹介◆◆◆

あま市民病院の活動やお知らせなどをFacebookでも発信しています。



<https://www.facebook.com/amahosp/>